へっぴりじんじい

むかしむかし、あるところにじっちゃとばっちゃがおったそうな。ある日じっちゃ山へ柴刈りに出かけたと。昼になったので、おにぎりを食べようとしたら、ココロロ転って、麓の天神様の手のひらにあがった。「にぎりまんま、けでけれ、けでけれ」とじっちゃが頼むと「ここで屁まげじれ(おならをして見せろ)と天神様がいったと。

そこで、じっちゃは「きゅうきゅう錦さらさら、ごよのまつばら(五葉の松原)とっぴんぱらりのプー」と言いながら、おならをして見せた。「うまい、うまい。もう一回」と言うので、もう一度やると、とても上手だとほめられお金を沢山もらった。思いがけないごほうびに、じっちゃは大喜び。さっそく家へ帰り、このことをばっちゃに話して上げたと。これを聞きつけた隣の欲ばりばっちゃ、自分の家のじっちゃに大きなおにぎりを持たせて山へやったと。欲ばりじっちゃは、わざとおにぎりを転ばし、天神様の手にのせて、「にぎりままけでけれ、けでけれ」と頼んだ。

すると「ここで屁まけれ」というので、きいたとおりにつぶやいて、おならをしようとした。ところが力を入れすぎてうんちをしてしまったと。欲ばりじっちゃは、ごほうびをもらうどころか、かんかんに怒った天神様に罰をあたえられて泣きながら家に帰ったとさ。